

ID No.	2038
研究課題名	大腸腺癌領域に高発現する亜鉛トランスポーターの病理的意義の解析
研究代表者	大橋 若奈 (富山大学・助教)
研究組織 受入教員	渡会 浩志 (東京大学医科学研究所・特任准教授) 異動に伴い受入教員を 岩間 厚志 (東京大学医科学研究所・教授) に変更
研究報告書	
<p>ヒト大腸がん組織を用いての免疫染色を行い、病態の進展に伴う亜鉛トランスポーターの発現の変動を解析した。その結果、がん進展ステージの進行に伴い、病変部における亜鉛トランスポーターの発現の亢進していることが分かり、大腸がんにおいて当該亜鉛トランスポーターは、がんの進展に寄与している可能性が考えられた。更に、この解析の過程で、がん病態の進展に伴い発現が亢進する亜鉛トランスポーターを新たに1種同定した。</p> <p>大腸がん細胞株を用いて検討により、これらの亜鉛トランスポーターのノックダウンにより、腫瘍形成能の低下、細胞増殖能の低下、アポトーシスによる細胞死の亢進が誘導されることがわかった。これらの亜鉛トランスポーターは大腸がん細胞の増殖や生存、及び腫瘍形成に必須であると考えられる。現在、これらの表現型をもたらす分子機構を解析するとともに、これらの亜鉛トランスポーターの過剰発現株を作出し大腸がん細胞形質へ与える影響についての検討を進めている。</p>	